

1, 本園の教育目標

- ・より強く・・・健やかな身体を育む
- ・より明るく・・・豊かな感性と安定した情緒を培う
- ・よりなかよく・・・社会性を身に付ける

2, 本年度の重点目標

新型コロナウイルスによる感染流行下において、園児の健康を守り、なおかつ成長発達を獲得するための保育を実践する。

3, 評価項目を取り組み状況

評価項目	取組状況
感染予防計画	<ul style="list-style-type: none"> ・東京都の指導、練馬区の指導に遵守する。 ・日本小児科学会および日本小児医学会の見解を参考する。 ・ウイルスを持ち込まない措置を徹底する。
実践	<ul style="list-style-type: none"> ・園に入場するものは必ず検温及び手指の消毒殺菌。 ・人、物について、不必要または断りが可能なものは極力遮断し、園内に入れない、持ち込まない。 ・園児は毎朝家庭での検温、園入室前に手指の消毒殺菌。 ・保護者は各家庭1名のみ同伴。基本家庭で活動している親のみ同伴可能。公共交通機関を利用し、不特定多数の人間と接触する親は入場を断る。 ・保護者の来園時間は時差を設定し、密にならないように分散させる。 ・発症者が出現した場合は区の指図に従って対処する。
保育	<ul style="list-style-type: none"> ・園児の成長発達を最優先事項とし、必要最低限の規制を心がける。 ・様々な配慮工夫を駆使して園児が蒙る損失を最小限にし、可能な限り例年に比べて遜色のない保育内容を確保する。 ・4, 5月の自粛期間の損失を補充させるために、夏休みを返上し、保育を補充する。 ・あずかり保育は密を避けるため、2号認定を受けた者のみ利用可とする。
研修	<ul style="list-style-type: none"> ・園内外の研修を行い、人間性と保育の専門性を向上させる。 <p>宿泊牧場研修（吉川牧場）、野外活動研修（ウレシパモシリ）、講習（幼造研）（練私幼）、園内保育研修（平田先生）、救命救急研修</p>
発信	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスに対する園の見解を明示。 ・感染状況は極力開示して保護者の注意喚起を図る。

	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスだより・掲示板・ホームページ。 ・練馬区子育て支援事業「ねりまこどもカフェ」参加協力。 ・幼造研の夏のオンラインによる研修大会にて発表。 ・ひかりのくに「保育とカリキュラム」2020.12掲載
--	---

4, 総合的な評価結果

一人ひとりの教職員が自らを客観的かつ具体的に自己評価し、課題を明確にした上で新たな目標を定めることに繋げる。

5, 今後取り組む課題

課題	具体的な取組方法
特別支援事業への理解	<ul style="list-style-type: none"> ・障害についての学習に努め、理解を深める。発達支援センターの訪問指導を要請し、個別の指導を受ける。 ・保護者からの情報を積極的に求め、ともに取り組む姿勢で臨む。
コミュニケーションを深める	<ul style="list-style-type: none"> ・学年を超えた情報交換をさらに深め、保育の成功例や手ごたえのあった取り組みを紹介し、共有する。 ・担当する係や分担された作業を互いに手伝ったり、助けを求めたりして、全体として速やかに貫徹できるような関係を築く。 ・得意とする人に遠慮なく指導を求めたり、助けてもらえるよう声を挙げる。
養護	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども、職員が具合が悪くなった時に横に慣れる設備が不十分なので充実させたい。
発信	<ul style="list-style-type: none"> ・園保護者に関わらず、広く世の親への啓蒙を強化し、子ども主体の保育を理解してもらえるように清心幼稚園の保育を発信していく。

新型コロナウイルス感染予防による自粛で会議不履行となる。

文書にて評価を回答していただく。

○評価委員からの意見

[父母会 A氏]

今年度の保育スタートは、2カ月遅れとなりましたが、新学期を楽しみにしていた子どもたちに届いた先生からのお手紙を大切に過ごした自粛生活でした。お友だちや先生に会えない期間が長かったからこそ、ようやく始まった幼稚園生活は子どもたちにとって毎日が興奮の日々だったと思います。保護者も家に閉じこもりだった生活で閉塞感でいっぱいだったので、子どもたちの表情が生き生きしたことに喜び、また他の保護者と不安と安心を共有できるようになったことは有難かったです。

保育の補充として夏の期間に登園できたことは、大変有意義でした。

「夕涼み保育」は、普段とは違う雰囲気の中でさらに夜の暗さや光を使った子どもたちがワクワクする新しい試みでした。

野外保育の充実は、普段の公園での遊びにも繋がっています。ウレシパモシリのケロちゃん先生のご指導は自然との関わりで身の回りのものはすべて興味関心を抱かせるものとして存在していることを教えてください。五感を生かした自然の楽しみ方は、子どもたちなりに新たに気づきをたくさん生み出しています。

遊具のない公園でも子どもたちは「探検ごっこ」と称して遊びまわっています。また、落ちている枝や花びら、実を宝物として遊びに使ったり飾ったり、上手に表現に活用しています。

入園を悩んでいる方によく聞かれることは、「自由な保育って放置されているのでは？」ということです。子どもの自由にさせている＝保育者が関与していない、捉えられているようです。

また、一斉指導をしていないというお話が、子どもたちが歌を歌ったり、絵本を読んでもらったり、「一緒に」活動することがセロと思われているようです。

実際は、教員が子どもの興味関心を刺激した工夫を行っていて活動を促していますし、子ども同士の活動も存分にあると思っています。

説明会やホームページでは伝わりにくいのでしょうか。実際の子どもの様子を見られる機会があれば良いのですが、コロナ禍においては一般公開は厳しいかと思いますが、外部の方に清心幼稚園が実践していることが伝わると良いと思います。

今年度、感染予防を考えつつも子どもたちの活動が滞らないように保育を勇気をもって行ってくださった清心幼稚園には大変感謝しています。

[木こりの会（父の会） B氏]

平素より大変お世話になっております。令和2年度、清心幼稚園学校評価委員会に際しまして、書面にてコメントさせていただきます。

はじめに

新型コロナウイルスの感染拡大、それに伴う緊急事態宣言発令という大変難しい環境の中、今この瞬間を生きる子どもたちの成長のために何ができるか、そのことを第一に考え、清心幼稚園の大切にする保育を一貫して実施いただいたことに敬意を表するとともに、1人の保護者として、心からの御礼を申し上げます。

一年を振り返って

本年度は、保護者としても、世の中で情報が錯綜し、社会的に多くの制約が課せられる中、戸惑い、迷い、悩みながら子どもたちと接してきた一年でした、幼稚園で保育に従事される皆様におかれましては、さらに難しいご判断をされてきたことと推察します。しかし、その中でも園長先生、副園長先生のゆるぎない方針のもと、現場の先生方が主体的に考え、ニューノーマルにおける保育を実践されてこられ、保護者もまた、その思いを常に感じてきました。

特に思い出されるのは、夏祭りを開催できない中、はじめての試みとして、夕涼み保育を実施されたことです。7月のタイミングでは、多くの組織が「やめる」「縮小する」という判断を取っていましたが、清心幼稚園では、逆転の発想で「何ができるのか」を考え、新たなチャレンジをスタートされました。夕涼み保育それ自体が子どもたちにとって素晴らしい体験だったことは間違いありませんが、何よりも、この難しい状況の中でも、子どもたちのために何ができるかという想いを胸に、新たな楽しみを生み出してくださった先生方の挑戦は、子どもたちの未来においても、かけがえのない財産として残るはずです。

また、先日開催された「のぞいてごらん こどものこころを展」でも、子どもたちの日々の豊かな活動が表現された素晴らしい展示の数々でしたが、先生方の作成された「主体性ってなに？」というメッセージは、多くの保護者の心に伝わるものがあったと思います。日々の保育の実践というメッセージは、多くの保護者の心に伝わるものがあったと思います。日々の保育の実践や研修活動から得られた「主体性」についての考え方が、先生方からのメッセージという形で表現されたことは、とても大きなことと思います。清心幼稚園の目指す保育が広く浸透していることのみならず、先生方における思考の深まり、日々の試行錯誤を実感いたしました。

木こりの会の活動と父親の保育参加

木こりの会（父親の会）としても、コロナ禍における活動のあり方に悩みながらも、園長先生からのお声がけもいただき、木こり伐採ツアー、餅つきのご協力、エフハウスの園庭などの整備のお手伝いを

させていただきました。一方で、年少の方々へのお声がけはできておらず、「木こりの会」の存在もご存じでない方がほとんどではないかと思えます。

また、現在の状況では、幼稚園が開催する木工活動、夏祭り、みんなで遊ぼうも開催は難しく、父親の幼稚園活動への参加が非常に少ない状況になっております。また、新年長が木工体験をしたことのないまま卒園に至ることを危惧する保護者の声を聴くことも増えています。本年度においても木楽里の協力を得て、山菜ツアー、伐採ツアーを開催するとともに、そのほかにも父子で参加して体験できる場を設けることができないか、園長先生にもご相談をさせていただきながら、模索していきたいと考えております。

卒業生（小学生）の状況

小学校においても、新型コロナウイルスへの対応から、多くの制約が課せられている状況です。常時マスク着用、給食も前を向いて食事をする、イベントが中止、音楽の時間に歌を歌うこともできないなど、特に幼少期において大切なコミュニケーションをとる機会の制約が非常に大きいことによる負の影響を心配しています。こうした状況との因果関係は分かりませんが、清心幼稚園の卒園生においても、低学年の児童に不登校が複数発生しています。清心幼稚園の保護者と連携しながら、卒園生がのびのびと活動できる場所、時間を少しでも提供できないか、木こりの会 OB の中での連携のあり方も含めて考えています。

おわりに

清心幼稚園の活動は、園長先生、副園長先生、先生みなさまの心身の健康あつてのものです。来年度におかれましても、皆様ご自身のご健康を第一にしつつ、清心幼稚園らしい保育活動を前に進めていただけますと幸いです。引き続き、どうぞよろしくお願い申し上げます。

以上